

# サツマイモの花畑は昆虫天国！

元石川県立大学 生物資源工学研究所 准教授

おおたに もとやす  
大谷 基泰

## 1. はじめに

日本の九州以北のサツマイモ畑ではサツマイモの花が咲くことはごく稀である。サツマイモの花はアサガオと同じ一日花であるが、そのサイズはアサガオよりも小さく直径5 cm前後の淡い赤紫色をしている。サツマイモの花は、その花色や模様、形の変異がアサガオに比べて著しく少ない。筆者は、くしまアオイファーム（株）そして宮崎大学農学部の國武久登教授と共同で露地開花性を持つ観賞用サツマイモ新品種の開発を目指すとともに、サツマイモの花の付加価値を高めることも検討している。その成果の一つとして、地元野々市市の養蜂業しずく工房と共同でサツマイモの蜂蜜の生産に成功し、ブランド化も進めている<sup>1)</sup>。最近では、近隣にある石川県立明和特別支援学校と連携してサツマイモの蜂蜜を使った商品開発や販売も試みている。同時に、採蜜用に植え付けた露地開花性サツマイモの花畑の観察会を一般向けに開催してその普及にも力を入れている。観察会では、主にサツマイモの花の鑑賞とセイヨウミツバチの訪花行動を観察しているが、いざサツマイモの花を前にしてじっくりと観察を始めると非常に多くの種類の昆虫がサツマイモに訪花していることに気付いた。そこで、サツマイモに訪花する昆虫の種類を調査した。

## 2. サツマイモの花に訪花する昆虫達

調査は、2025年に石川県立大学附属農場（石川県野々市市）内の圃場で栽培中の露地開花性サツマイモを使っておこなった。31m×25mの大きさの圃場に9本の畝を作り総計220株の露地開花性サツマイモを植え付けた。この露地開花性サツマイモの試験栽培圃場の周辺には他に露地開花性サツマイモを栽培している場所はなく、殆どが水田で一部が野菜などを栽培する畑地であった。サツマイモに訪花する昆虫の調査は、サツマイモの花に飛来して吸蜜行動をおこなったものと花筒の中に入る行動をとったものをその場でスマートフォンのカメラもしくはデジタルカメラで撮影した後、撮った画像によって種の同定することによっておこなった。観察はサツマイモが開花している期間の日中の午前中に不定期におこなった。その結果を表1と図1にまとめた。

今回、著者が確認することができたサツマイモに訪花する昆虫は、蛾や蝶の仲間を含むチョウ目、アブやハエの仲間を含むハエ目、そして蟻や蜂の仲間を含むハチ目に属していて非常に多くの種類の昆虫がサツマイモに訪花していることがわかった。さらに、撮影することができずに同定できなかった昆虫類も他に多数あったことや観察

時間が限られていたことから、表1に挙げた以上の種類の昆虫がサツマイモの花を訪れていると考えられた。また、今回の調査では、コガネムシやハナムグリの仲間が含まれる

コウチュウ目の昆虫の訪花を確認することができなかったが、このことがサツマイモの花に特徴的なことかどうかは今後さらに詳細に調査を進めて判断する必要がある

表1 サツマイモへの訪花を確認できた昆虫の種類

| 種名                | 種名                  |
|-------------------|---------------------|
| チョウ目              | ハチ目                 |
| アゲハチョウ科           | アナバチ科               |
| アゲハチョウ（ナミアゲハ）     | アメリカジガバチ            |
| キアゲハ              |                     |
| モンキアゲハ            | アリ科                 |
|                   | 数種類（未同定）            |
| シジミチョウ科           |                     |
| ベニシジミ             | スズメバチ科              |
| その他数種類（未同定）       | オオスズメバチ             |
|                   | キアシナガバチ             |
| シロチョウ科            | キボシアシナガバチ           |
| キタキチョウ（キチョウ）      | セグロアシナガバチ           |
| モンキチョウ            | フタモンアシナガバチ          |
| モンシロチョウ           |                     |
|                   | ミズアブ科               |
| セセリチョウ科           | ハラキンミズアブ            |
| イチモンジセセリ          |                     |
| チャバネセセリ           | ハナアブ科               |
|                   | オオハナアブ              |
| タテハチョウ科           | シマアシブトハナアブ          |
| アカタテハ             | シマスジベッコウハナアブ        |
| ツマグロヒョウモン         | ミナミヒメヒラタアブ          |
| その他数種類（未同定）       | その他小型のハナアブが数種類（未同定） |
|                   |                     |
| スズメガ科             | ミツバチ科               |
| オオスカシバ            | キムネクマバチ             |
| ホシホウジャク           | クロマルハナバチ            |
|                   | セイヨウミツバチ            |
| ハエ目               | タイワンタケクマバチ          |
| クロバエ科             | ニホンミツバチ             |
| ツマグロキンバエ          | ヤヨイヒメハナバチ           |
| その他ハエの仲間が数種類（未同定） | その他小型のハナバチが数種類（未同定） |

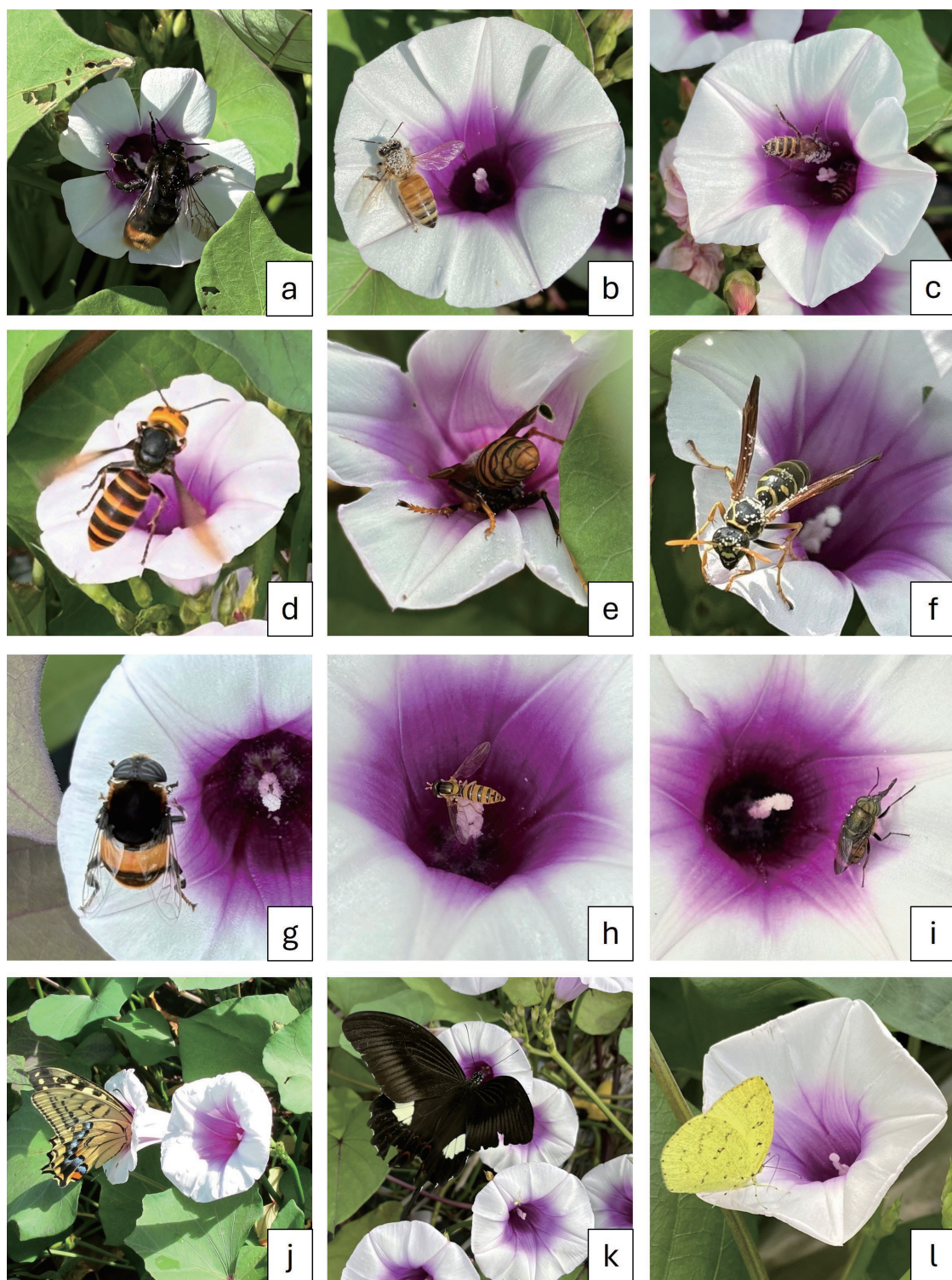


図1 サツマイモに訪花した昆虫の一部

a: クロマルハナバチ, b: セイヨウミツバチ, c: ニホンミツバチ, d: オオスズメバチ, e: キアシナガバチ, f: フタモンアシナガバチ, g: オオハナアブ, h: ミナミヒメヒラタアブ, i: ツマグロキンバエ, j: キアゲハ, k: モンキアゲハ, l: キタキチョウ



---

あると考えられた。

今回調査をおこなった圃場の周辺には同じ露地開花性サツマイモを栽培している畑が無く、地域でたった1箇所の露地開花性サツマイモの圃場であるにも関わらず多くの昆虫が訪花していることは大変興味深いことである。ハエ目やハチ目、そしてセセリチョウなど小型のチョウ目の昆虫の多くは、花筒から出てきた際には頭部や胸部にサツマイモの花粉が付着していることも確認できたことから（図1 a, b, c, f, i）、これらの昆虫はサツマイモのポリネーター（送粉者）としての役目を果たしていると考えられた。実際に、2021年にはセイヨウミツバチの巣箱を設置していなかったにも関わらず、露地開花性サツマイモを栽培していた圃場では多くの結実を確認することができた。このことは、サツマイモの花が吸蜜性の昆虫にとって非常に魅力的な花であることを示していると考えられ、サツマイモはこれらの訪花昆虫をポリネーターとしてうまく利用していると考えられた。

また、今回の調査結果をサツマイモの訪花昆虫相と位置づけるには、観察データ量の少なさから不十分であると考えられる。今後は、捕虫や圃場に固定したデジタルカメラによるインターバル撮影をおこなって

訪花昆虫の種類や訪花頻度などより詳しく調査する必要があると考えられる。

### 3. おわりに

今回の調査では、多様な吸蜜性昆虫がサツマイモに訪花していることがわかった。そして、これらの訪花昆虫を狙うトンボなどの肉食性の昆虫も多く観察できた。さらに、これらの昆虫を狙って鳥類も多く飛来していた。さながらサツマイモの花畑を中心にした生態系が形成されているようにも考えられた。この特徴を積極的に活用する方法の一つとして都市型養蜂が考えられる。都市部にある建物の屋上やベランダ、公園といった場所で露地開花性サツマイモを栽培することによって、街中に多くの昆虫が訪れる場所を創り出すことができるとともに、屋上緑化やグリーンカーテン機能も併せ持つ良好な景観、蜂蜜の生産そして生態系を学ぶ場をも提供する機能を有する養蜂を可能にするのではと期待している。

### 引用文献

- 1) 大谷基泰 (2024). 「サツマイモの花を利用したブランド蜂蜜の開発」. いも類振興情報 160 : 59-63.